

専念寺通信

専念寺通信

九月号 (NO. 121)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>



連日、35度を越える記録的な猛暑が続いています。毎日のように熱中症の患者さんの数が報道される今年の夏です。おかわりなくお過ごしですか？

☆秋の彼岸会

今年も秋のお彼岸がやって参ります。ちょうど連休も重なりますがお中日は9月23日、この日ははさんで前後3日ずつが秋の彼岸会です。毎年お話ししておりますが、このお中

日、秋分の日には昼の時間と夜の時間が同じ長さになります。そして太陽は真東からのぼり、真西に沈みます。お彼岸は、西方十万億土にある極楽浄土に思いをはせ、煩惱に満ちたこちら側から、安らぎと穏やかさに満ちた向こう側へ往生できますようにと祈る期間ととらえることができます。また、みなさま、もうよくご存知の六波羅蜜と呼ばれる六つの徳目を実行に移す期間ととらえることもできます。六波羅蜜は次の6つの徳目をいいます。

布施 (ふせ)	与えること。財施 (ものを施す)・法施 (真理を施す)・無畏施 (恐怖をとりのぞき安心を与える)
持戒 (じかい)	戒律を守ること。
忍辱 (にんにく)	苦難に堪え忍ぶこと。
精進 (しょうじん)	真実の道をたゆまず実践すること。
禅定 (ぜんじょう)	精神を統一し安定させること。
智慧 (ちえ)	真実の智慧を得ること。

この六つの徳目をまずは試してみることから始めましょう。すべてを達成するのはなかなか大変ですが、ひとつ、何かを心にとめておき、機会が

あったら実行する、と決めておけば、不思議なもので必ず実行する場面に出くわします。今だ！と思ったら、迷わずに進みましょう。実行は心の中で静かに深いところで行なうことも無論できます。禅定、などがそうです。ひとつのグループにひとりこのような人がいるだけで他の人まで心が穏やかになります。これも六波羅蜜の効用です。

☆ボランティアということ

6月号、8月号でお知らせしましたが、大黒は今年に入って、いくつかのボランティア団体の方たちと出会う機会に恵まれました。まず、幼い難民を考える会 (CYR)、この会のカンボジア支局は現地の貧しい人たちの自立支援をしています。CYRの設立当初の1980年代は軍事政権のために大勢の人が犠牲となっていました。隣国タイに逃れた人たちは難民キャンプでの生活を余儀なくされ、幼い子や女性が実際に難民となっていたのですが、今ではこの国の貧しい人たちが自立できるようにと支援しつつ、現地と日本で息の長い活動をしています。このNPOの動物マスコットはお盆のときに檀家さまに大人気でした。他にもとても美しい、草木染めの布物が多くあり、カンボジア女性の技術の確かさと根気に驚かされます。また、ここまでの技術と信頼と流通を築いた多くのボランティアの人たちの心根に感動します。「アーユス」という仏教のNPOの集まりはパレスチナの人たちに関してでした。会場となったお寺の開放されたあたたかなたずまい、集まった人たちのごく普通の態度、生き方、それらすべてがあまりに何気ないために、緊張して行ったこちらが恥ずかしいようでした。もうひとつ、癌のホスピス、孤児院にかかわる人たちとも出会いました。こちらはドキュメンタリー映画を見るために240人もの人が集まって来る大規模なイベントでした。大黒は微力ながら会場の受付や寄付を兼ねた物品販売を手伝いましたが、ボランティアの主だったメンバーは癌経験者で、しかも今は治癒して社会で活躍している人たちでした。困難に会ってもまた立ち上がり、同じ困難にある人に手を差し伸べようという人達に出会い本当に勉強になりました。

9月に入っても暑い日が続きます。皆さま、どうぞくれぐれもお大事になさってください。

平成22年9月1日 大黒

